



日本共産党 北区議会議員

のの山けん 区政レポート

<https://ken-nonoyama.com/> mail@ken-nonoyama.com

No.767 2025.11.26

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は
お気軽に **090-2156-3510**

赤羽駅周辺まちづくりは

北区議会第4回定例会代表質問

再開発によらない事業手法で



代表質問する、のの山区議

25日の区議会定例会代表質問で赤羽まちづくりについて質疑。補助金交付対象から外れた「中央地区」市街地再開発計画を、しやにむに推進しようとしている区の姿勢を問いました。(のの山けん)

7月の赤羽駅周辺地区まちづくり基本計画策定を受け、今年度内には、まちづくり事業手法についての検討が始まります。

一番街やシルクロード、OK横丁を撤退に追い込み、赤羽小学校の敷地も取り込む「中央地区」市街地再開発計画については、地域住民から「赤羽にこれ以上のタワマンはいらない」、「せんべろ街や赤小は今の場所で再整備を」との声があがっています。

しかも国交省は、市街地再開発の補助金交付対象

北区が策定を検討している 立地適正化計画

道理がない4つの理由

1. すでに密度の高い都市構造をもつ赤羽に、立地適正化計画をかける必要はない。

2. 制度創設以降10年間、区は立地適正化計画導入を一度も検討したことがない。

3. 計画策定には新たな行政コストや時間がかかる。

4. 補助金の交付対象を絞り込むとした国交省の要綱改正の趣旨にも反する。

を必要性・緊急性が高い事業に絞り込むとしており、現状では「中央地区」はその対象から外れます。

ところが区は、「国の支援制度を活用できるような検討する」として、「都市機能の集約」にあたる立地適正化計画の策定を検討する意向を表明しています。

人口減少・高齢化や市街地拡散といった都市の課題に対応するための立地適正化計画は、赤羽のまちになじむものではなく、再開発の補助金を獲得するためだ

けに計画を策定するのは本来末転倒といわなければなりません(囲み参照)。

いま北区でも、建設費の高騰や入札不調で、北とびあの大規模改修や児童相談所等複合施設の設計見直しが余儀なくされており、再開発だけが「計画化すれば補助金が満額下りる」という状況でないことは誰の目にも明らかです。

立地適正化計画の策定は取りやめ、赤羽のまちづくりは再開発によらない事業手法で進めるべきです。

樹木伐採計画の見直しを

25日の代表質問で、現在4か年かけて行われている名主の滝公園の再生整備について質疑し、来年度予定されている斜面散策エリアでの樹木伐採計画を見直すよう求めました。

昨年度、三平坂拡幅のための樹木整理では最終的に170本の樹木が伐採されました。多くは幹回りの小さい樹木や実生木ですが、幹回り150センチ以上の樹木も昨年度16本、今年度4本伐採されています。

さらに来年度は、斜面に散策路と見晴らしデッキを整備するために、幹回り150センチ以上の樹木20本のうち、11本の伐採を見込んでいます。

私は、住民のみならずと現地を視察し、こ

【名主の滝公園再生整備計画図】



れらの樹木が地上に影響をつくり樹幹被覆率を上げる重要な役割を果たしているとともに、一度伐採すれば、再生するまで長い年月がかかることを確認、「これからでも伐採計画を

変更し、樹木を残すべきでは」と求めました。これに対し担当部長は、「現地の確認や設計はこれから。可能な樹木は極力残すようにしていきたい」と答えました。（のの山けん）

新年度予算要望書を山田区長に提出

北区議員団と、せいの恵子都議

日本共産党北区議員団と、せいの恵子都議は20日、山田区長に「2026年度予算編成に関する要望書」を提出しました。区民や区内団体から寄せられた要望を10の柱・190項目にまとめて要請しました。（のの山けん）



山田区長(右から4人目)に予算要望書を手渡す北区議員団